

「増えた業務・多忙化した業務」の内容・状況 / 職場の声

増えた業務 多忙化した業務	内容・状況	職場の声・対策
個別教育計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画案の作成や一人ひとりのクラスでの話し合いに、時間をかなり費やしている。 	<p>児童生徒のことを話すことができ、保護者の意見を取り入れることもできると言う点はよい。</p> <p>個別教育計画を通信票とリンクさせ、年2回の作成とすることで事務量が軽減する。</p> <p>よく考えられ簡略化された書式であれば、作成もスムーズで、次の担当者、転勤者、新任者も児童生徒のことがよくわかる。</p> <p>個別指導計画によって成果主義に陥り、教育の創造性や自由を奪うことにならないよう注意が必要。</p> <p>管理職等から、成果主義的な細かい文言のチェックが入ることもある。(例「笑顔で楽しんでいた。」×「手を動かした」)</p>
支援シートの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者との面談内容の増加 	<p>シートは作成しても、実際には有効に使用されていないことも多い。</p>
支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関との打ち合わせ ・ 支援会議の設定 	
特別支援学校地域センター化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援専任教諭の創設。 ・ ボランティアの育成・募集 ・ 研修会の増加 	<p>進路、地域支援の先生が大変そう。</p>
交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居住地交流 ・ 地域交流 	
学級担任の負担増	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級担任数が減り、一人の担任が担当する児童生徒数が増えた。 ・ 授業準備、行事準備、評価、保護者への対応などの業務が少ない担任に集中し、負担が増大している。 ・ 指導体制が手薄になり、安全面への不安がある。 	<p>学部長、総括教諭が担任として入ると、他の担任に負担がかかる。</p> <p>臨任でも常勤以上に働かざるを得ない状況がある。</p> <p>30時間非常勤は、打ち合わせも持てず宿泊にもいけないという働きにくさがあるにもかかわらず、担任一人分としてカウントされるため、時間外に働かざるを得ない状況が発生している。</p> <p>総括教諭にも、子どもから離れてほしくない。大変でもクラスに入って欲しい。(教員定数の減少で入らざるを得ない学校もある)</p> <p>自立活動専任も担任に入れるのでは。</p>
人事評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価表作成 ・ 管理職との面談 	<p>面談や評価記入の時期には、管理職が人事評価の業務に忙殺され、他の校内業務に支障が出る。</p> <p>全職員の仕事の把握は不可能な中で、評価をつけられ、それが給与に反映することは、やる気をそぐ。多忙な中で徒労感がつのる。</p>

初任者研修	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の計画と報告書作成 ・校内の指導教官の負担 ・校外研修 	<p>校外研修で本人も他の担任もきつい。校外研修後の報告など、事務量が多いパソコンの台数が少ないので、CD-Rを見る研修などは勤務時間後になる。研修の内容を精選して減らす。本当に必要な研修のみにし、現場での教育力を活かす。</p> <p>分掌の仕事を初任は持たない学校もある。</p>
学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定、評価、まとめ等会議の増加 ・中間評価の設定 ・カテゴリー全体で広範な目標の設定と評価を行うため、会議が不効率。 	<p>評価のための会議にかなり時間をとられる。</p> <p>「年度末反省」が学校評価にかえられたが、目的が違うので、校内業務の的確な反省や改善にうまく結びつかず混乱する。</p>
地域とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへの参加 ・地域の学校との交流 ・学校評議員制度 	
学校情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページなど、学校情報の公開。 ・学校見学増 ・入学者選抜の開始 	<p>ホームページ作成担当者の負担が大きい。載せる写真などに神経を使う。</p>
校内IT化	<ul style="list-style-type: none"> ・年間教育計画、支援シートなどをパソコンで作成してサーバーに保存する。 ・会議や打ち合わせの資料のパソコンによる作成 	<p>個人でパソコンを持ってきている人といない人で仕事のしやすさに差が出る。</p> <p>便利なこともあるが、慣れないと大変。会議資料をパワーポイントで作成するなど unnecessaryな業務をふやさない</p> <p>セキュリティーなど、常に意識し情報を得なくてはならない。</p> <p>情報担当者がコンピューターの管理やメンテナンスに忙殺される。</p>
出張年休のコンピューター入力	<ul style="list-style-type: none"> ・出張・年休を教員が自分でコンピューター入力 	<p>職員に対してパソコンの数が少ない。休憩時間に入力するしかない。</p>
設備の老朽化	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の点検や補修が多い ・古いボイラーなどの設備では、温度調節などが機械任せにできず、人が見守ったり調節したりすることが必要。 	<p>老朽化したプールで水温調節がむずかしく、何度もチェックしたり、調節したりしないといけない。</p>
大規模化	<ul style="list-style-type: none"> ・教室が足りず、年度が変わるたびに、特別教室などをつぶしたり入れ替えたりして教室の確保をしないといけない。 	
入学者選抜	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜の開始 	<p>事前の資料チェックを減らすなど業務の効率化はできる。</p>
分教室開設	<ul style="list-style-type: none"> ・分教室の設置増 ・間借りや分教室の独自予算がないという中で、教育活動に困難が伴う 	<p>校内の開設担当者の負担は大きい</p> <p>本校との行き来、物のやりとり、間借りしている学校との打ち合わせや調整など、本校にはない大変さがある。</p>
会計関係書類・手続き・報告の細分化、厳密化	<ul style="list-style-type: none"> ・会計簿が細かくなり、PTAの監査が頻繁に入るなど、非常に煩雑になった ・行事会計が細かくなった。 ・学級活動費も個別会計に近づいている 	<p>書類の形式ややり方が毎年のように変えられる。昨年通りで通用しない。簡素化し形式を決めて欲しい。</p>

事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンのセキュリティー ・個人情報管理 	
不審者対策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺パトロールなど、不審者情報への対応 ・不審者対応の校内研修増 	
保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・説明責任の増大 ・学校に対する要求の増大 ・諸費用の不払いへの対応 	<p>チームの中で話し合う。チームで気持ちを共有できるシステムを作る。</p> <p>保護者も、同学年のみでなく、たてのつながりも作ることができる場を作る。</p> <p>(不安な小学部の保護者も高等部先輩の話で安心できることもある。)</p>
進路指導での負担増	<ul style="list-style-type: none"> ・経済状況の影響か、実習に行っても決まらなくなり、実習回数が増加 	
児童生徒の多様化	<p>軽度の児童生徒への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽度生徒の校内外での問題行動への対応(喫煙、万引き、家出、いじめ、交友問題、出会い系サイト等) ・徘徊、放浪癖、大暴れ、線路歩き、など目が離せない生徒、まわりに影響を与える生徒への対応 <p>重度の児童生徒への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動性の高い重度の児童生徒の、活動の保障と事故防止 	
医療ケア等での負担増	<ul style="list-style-type: none"> ・校外研修のため、校内が手薄に。 ・医療ケア等の校内研修増。 ・ケアのためにマンツーマンで教員が教室を抜けるため、医療ケアを受けない児童生徒に対応する教員が減。授業展開にも影響 	<p>ケアの種類も増え、知識がおいつかない。</p> <p>「医療ケア等」の意義や位置づけについてよくわからないまま、研修を受け、何とか毎日こなしている現状がある。</p>